

令和7年度 陸上競技部の指導方針等について

令和8年4月29日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	森谷 隆	近藤 宏則	柔道整復師・鍼灸師	月2日
副顧問	芳賀 紀久美	柴田 陸	東京都市大学	月2日
副顧問	森 暁子			
副顧問	河野 真由子			
副顧問	日景 和人			

2 年間目標

- (1) 怪我・故障の予防に努め部活動内での事故を防ぐ。
- (2) 学校の教育目標に沿い、レベルの高い「文武両道」を強く意識し、高い目的意識を持って、体力のみならず精神面も強化し強い人間をつくるため日々努力していく。
- (3) 心・技・体ともに充実させ、全国大会上位入賞を目指し日々の練習の充実を図る。
- (4) 「駒場スポーツ教室」の実施により、中学生との交流を行う。

3 指導方針

- (1) 健康であることを大切にし、疾病・怪我予防に全員で務めることができるようになる。
- (2) 練習は週5日を原則として、週2日は休養をとる。休養の期間には十分に体のケアをして、大会や次の練習に備える。
- (3) 年間の競技日程に従い、競技会への準備をする。特に、上につながる大会や、関東レベル、全国レベルの大会には早めに準備を進め、大会に備える。
- (4) 各種目にブロック長を設け、練習内容や他のブロックとの調整をおこなう。
また、上級生は下級生の指導を細かく行い、誤りの無いように活動の円滑化をはかる。
- (5) 日常の活動をとおして、協力性や協調性、責任感をもたせる。
- (6) 学習と部活動の両立を図り、部活動を理由に学習を怠ることをさせない。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
学年色を出しながらも、行き過ぎた指導や、暴言を伴うような指導は絶対にしない。
顧問、卒業生に何でも話ができる環境をつくる。
- (2) 生徒間の暴力禁止
生徒間においても、行き過ぎた指導や暴力、暴言は許されない。何か問題があれば、顧問をとおして、解決できるようにしていく。
- (3) 外部指導員の活用
柔道整復師の資格を持つ卒業生や各種目の指導資格を持つ卒業生が外部指導員となり、競技面も含めけがの防止、ケアの方法を指導してもらい充実を図る。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	部活動紹介 春季競技会 東京選手権大会 支部都大会予選会
	5	都大会
	6	学年別大会 関東大会
	7	選抜・1年生大会 「駒場スポーツ教室」
	8	インターハイ 夏季合宿 長野県霧ヶ峰 4泊5日
2 学期		夏季競技会
	9	新人支部予選会 新人都大会
	10	強化競技会 関東新人選抜大会
	11	秋季競技会 都駅伝大会
	12	「駒場スポーツ教室」 都、関東強化合宿
3 学期	1	冬季専攻合宿 千葉県中里海岸 3泊4日 支部駅伝大会
	2	日本ジュニア室内大阪大会
	3	都強化合宿 全国合宿

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

令和8年度 柔道部の指導方針等について

令和8年4月18日

1 指導体制

顧問教諭氏名		部活指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	秋野 翔太 (保健体育)	大路 歩美	中高保健体育科教員免許 公認指導者 柔道4段、	週 1～2
副顧問	秋山 樹里 (国語)	岩崎 克弥	中高保健体育科教員免許 公認指導者 柔道6段	週1
副顧問	木本 真衣 (国語)	上本 裕祥	中高保健体育科教員免許 公認指導者 柔道6段	週 1～2
副顧問	手嶋 憲彦 (理科)			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を大切にする本校において、目的意識と自ら実践する強い行動力をもって「人格の完成」を目指し、より高い目標に到達すべく日々努力を重ねる。
- (2) 大会等の具体的到達目標
全国・関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
年2回の柔道教室や各種柔道大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
稽古は、原則週に5日間、2～3時間とし、効率的に集中して行う。
(火・水・木・金・土・日)
- (2) 練習や試合等の計画
月に2～3回程度、競技力を高めるため、合同練習や練習試合等を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識の育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、リーダーシップ等他の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
部員・顧問・保護者が共に信頼し合い、コミュニケーションできる環境を設定する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、効率的で短時間の練習を実施する。

4 指導内容・方法

顧問、部活指導員、外部指導員、生徒、保護者で指導について共通理解を図る。
部活動指導員・外部指導員の活用（今年度当初は部活指導員3名体制）
顧問と部活動指導員・外部指導員が話し合い、共通理解を図ったうえで指導を行っていく。
生徒の心身の発達や個々の体力・技術等を適切に配慮し活動を行う。

5 主な年間計画（予定）

学 期	月	内 容
1 学期	4	高体連柔道部総会 生徒会部活動紹介 関東大会支部予選 関東大会東京都予選 部活動保護者会（指導方針等を説明）
	5	高校総体支部予選 高校総体東京都予選
	6	関東大会 高校総体東京都予選 国体東京都予選 目黒区体育祭柔道大会（選手・補助役員）
	7	中学生部活動体験教室（駒場スポーツ教室） 東京都ジュニア
	8	夏季合宿（勝浦 日本武道館研修センター 8月3日～6日） 夏季遠征 関東国公立高校柔道大会 全国体育系大会（埼玉県立武道館）
2 学期	9	関東選抜大会（個人）支部予選 関東選抜大会東京都予選
	10	目黒区体育祭柔道大会
	11	関東選抜柔道大会（本戦） 新人大会
	12	冬季遠征
3 学期	1	選手権大会支部予選 選手権大会東京都予選
	2	関東体育系大会（群馬県）
	3	中学生部活動体験教室（駒場スポーツ教室） 全国高等学校柔道選手権大会 東京都国公立高校柔道大会 春季遠征

(様式)

令和 8 年度 剣道部の指導方針等について

令和 8 年 5 月 1 0 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	古谷 光平	友安 秀徳	剣道六段	週 2
副顧問	西川 かおり	程塚 啓太郎	剣道四段	週 1
副顧問	小澤 千里			

2 年間目標

- ・ 関東大会出場 男女団体
- ・ 部訓である「和」をもって、勝つことのみを目的とするのではなく、剣道の修行を通じて、強い心を築き、社会性を養い、他を思いやる心をもつことができるよう心がける。
- ・ 文武両道を実践し、勉強も部活動の全力で取り組む。
- ・ 凡事徹底 当たり前のことをしっかりと実践できるよう心がける。

3 指導方針

- ・ 各種大会・錬成会の参加
高体連主催以外の大学主催の大会などに参加する機会を増やす。東京都のみではなく近県の錬成会に積極的に参加する。校外の人と触れ合うことで人間としての幅を広げる。
- ・ 稽古内容の工夫
旧芸術高校体育館を使用することの利を生かし、試合場面の想定した実践的稽古を増やす。部員自身が目的達成のためにどうするのがよいか論理的に考え、計画を立てて実践する力をつける。
- ・ 昇段審査の受審
日頃から木刀による剣道基本技稽古法、日本剣道形に関する知識や刀法を踏まえた稽古を取り入れることで、剣道に関する正しい知識を身につけ、昇段を目指す。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。

(2) 生徒間の暴力禁止

暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。

(3) 外部指導員の活用

顧問と外部指導員、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	関東剣道大会東京都予選 団体の部
	5	部活動保護者会 関東剣道大会東京都予選 個人の部
	6	全国総体(IH)支部予選 団体個人の部 関東大会（栃木県） 全国総体(IH)東京都予選 団体の部 段審査 引退式
	7	都立夏季錬成大会（個人段別） 道場連盟全国大会補助役員 夏季合宿（東京都日野市 3泊4日で予約済）
	8	埼玉錬成会 山内旗剣道大会（日本体育大学主催） 高体連主催武道系部活動合同稽古
2 学期	9	高体連普及指導講習会 成田錬成会
	10	
	11	級審査 秋季大会 第4支部大会
	12	形大会 全国選抜大会予選(新人戦)支部予選 とりこま錬成会 国公立大会（団体） とりこま錬成会
3 学期	1	全国選抜大会東京都予選
	2	段審査 高体連主催合同稽古会
	3	立教杯高等学校剣道大会（立教大学主催） 梅澤杯争奪東北復興支援高校剣道大会（元関東高校体育学科・コース剣道大会） 拓高旗錬成会・大会（拓殖大学第一高等学校主催） 柴田旗争奪剣道大会（国士舘大学主催）

※加えて、錬成会(練習試合)が入っていきます。

(様式)

令和 8 年度 サッカー部の指導方針等について

令和 8 年 4 月 2 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	横溝 大輔	川口 貴史	公認 B 級コーチ	週 3
副顧問	北洞 拓郎	小山 貴之	日本大学教授	週 2
副顧問	外側 淳久	荒牧 太郎	本校卒業生 元 F リーガー	週 2
副顧問	岡本 竜一	君島 哉	本校卒業生	週 5
副顧問	恒藤 碧			

2 年間目標

関東大会出場
インターハイ出場
全国高校サッカー選手権出場

3 指導方針

個々の技術の向上および人間性の確立
高校部活における生活のプライオリティー（学業・行事への積極性）
生活習慣の確立

4 指導内容・方法

（1）体罰・暴言等のない指導

科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。

（2）生徒間の暴力禁止

生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
ミーティングの活用

（3）外部指導員の活用

顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

※ 4（1）から（3）までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期		生徒会部活動紹介
	4	関東大会東京都予選 部活動保護者会（指導方針等を説明）
	5	インターハイ東京都予選
	6	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	7	夏季合宿（長野県上田市菅平高原 4泊5日）
	8	強化練習会参加 練習試合、県外遠征
2 学期	9	東京リーグ
	10	高校選手権東京都予選
	11	新人大会東京都予選
	12	基礎体力強化練習
3 学期	1	（全国大会競技補助運営）
	2	地区リーグ戦大会
	3	春季休業中 練習及び練習試合、県外遠征

(様式)

令和 8 年度

部の指導方針等について

令和 8 年 4 月 15 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	永迫 光樹	齋藤 寛人	本校卒業生 日本水泳連盟基礎水泳指導員 地歴科の教員免許 日本水泳連盟基礎水泳指導員	週 2 回
副顧問	鷹觜 希子	久保 亮輔	本校卒業生 理学療法士 日本水泳連盟基礎水泳指導員	週 1 回
副顧問	田中 啓之	内藤 健二	本校卒業生 スイミングスクール指導者	週 2 回
副顧問	十亀 有紀	猿木 孝一郎	本校卒業生	月 2 回
		中村 彩希	本校卒業生	月 2 回
		野村 昊佑	本校卒業生	週 1 回

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会・インターハイ・全国 JOC ジュニアオリンピックカップ出場、東京都高等学校選手権水泳競技大会総合入賞

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日3時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
公式戦近くに、練習成果の確認・大会へのモチベーションを高めるため他校を招いての記録会を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
個人競技ではあるが、チーム駒場として行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインなどを活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
 - (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
 - (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。
- ※ 4 (1) から (3) までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 部活動保護者会（指導方針等を説明） 春季駒場合同記録会
	5	東京都高等学校春季競技会
	6	東京都高等学校選手権競技会（関東大会東京都予選）
	7	関東高等学校選手権競技会（茨城県） 夏季全国 JOC ジュニアオリンピック東京都予選会
	8	夏季合宿（長野県茅野市 3泊4日） インターハイ（広島県） 十六高等学校水上競技大会 中学生部活動体験入部 夏季全国 JOC ジュニアオリンピック競技会（東京都江東区）
2 学期	9	東京都高等学校新人水泳競技大会 東京都高等学校長水路記録会
	10	東京都秋季競技会 秋季駒場合同記録会
	11	
	12	冬季駒場合同記録会 専攻合宿（場所未定）
3 学期	1	東京都新春競技会
		東京都高等学短水路記録会
	2	東京都冬季競技会 春季全国 JOC ジュニアオリンピック競技会東京都予選
	3	春季全国 JOC ジュニアオリンピック競技会（東京都）

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和8年度体操競技部の指導方針等について

令和8年4月22日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	佐藤 崇太	松本 泰孝	体操男子1種審判員	月1・2回程度
主顧問	田中 柊彩	大島 杏子	体操女子1種審判員	月1・2回程度
副顧問	柴田 晶子			
副顧問				
副顧問				

2 年間目標

- ・男女団体でインターハイ、関東大会出場を目標とする。
- ・学年別、秋季大会、種目別大会においては団体、個人ともに優勝を目指す。

3 指導方針

- (1) 目標に対する課題達成のためのモチベーションを高くもち、短時間に集中して練習を行う。また長期休業中や週休日の練習においては技の習得に時間をかけ、完成度を高める。
- (2) 挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (3) 協調性や責任感を涵養する。
- (4) 学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料(DVD)を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

※ 4(1)から(3)までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 部活動保護者会（指導方針等を説明） 女子学年別 3 年生大会
	5	男子女子関東予選・男子 3 年生大会 男子女子国民スポーツ大会予選
	6	関東大会（群馬） 東京都総合体育大会 兼 全国総体予選（男女）
	7	夏季合宿健康診断 夏季合宿（筑波大学）
	8	インターハイ（兵庫） スポーツ教室 男子・女子種目別大会 全日本ジュニア大会（栃木） 女子学年別 2 年生大会
2 学期	9	D スコアー獲得のための技の習得 国民スポーツ大会（青森）
	10	女子学年別 1 年生大会 演技続行練習
	11	男子新人大会 男子秋季大会・高校選抜予選大会 女子秋季大会 強化練習 女子高校選抜予選大会 スポーツ教室
3 学期	1	技の習得
	2	演技会・新技発表会（校内）
	3	全国高校選抜（宮崎） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

【記入例】

令和〇〇年度〇〇〇部の指導方針等について

令和〇〇年〇月〇日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	日本サッカー協会 公認C級	週4日
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	高校サッカー部 コーチ	月1回
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇		

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間3回、スポーツ大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

(4) 事故防止・安全配慮

生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選 関東大会〇〇県
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	8	夏季合宿（〇〇県〇〇市 体育館 3泊4日） 強化練習会参加 練習試合、〇〇県遠征
2 学期	9	地域スポーツ大会補助役員
	10	新人大会東京都予選 中学生部活動体験入部
	11	〇〇区民大会参加 〇〇大学合同練習
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	全国大会競技補助運営
	2	地区リーグ戦大会
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和8年度 男子バレーボール部の指導方針等について

令和8年 4月 25日

1 指導体制

顧問教諭氏名		部活動指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	手束 貴則	荒木 孝二	4年目	週4
副顧問	松原 千尋			
副顧問	田中 小巻			
副顧問				
副顧問				

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
高体連主催の公式戦予選2日目に進出し、東京都ベスト32を目指す。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
1年生部員は、在部中に「人間と社会」の企業体験に参加する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質の工夫
練習は、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
11月頃までは、基礎体力と向上と基本プレーの定着に重点を置く。12月以降は練習試合等を通じて、試合運びやチームプレーを学ぶことに重点を置く。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料(DVD)を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。

(3) 外部指導員の活用

顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

(4) 事故防止・安全配慮

生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 春季目黒区大会
	5	関東大会東京都予選
	6	
	7	インターハイ 東京都予選
	7	夏季合宿健康診断 夏季目黒区大会
	8	夏季都立校大会
2 学期	9	全日本 1 次予選 秋季目黒区大会
	10	
	11	新人大会東京都予選
	12	都立高校審判講習会 冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	
	2	冬季都立高校大会
	3	春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和7年度 女子バレーボール部の指導方針等について

令和 7年 4月11日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	松田 理宏	徳永 泰理	フィジカルトレーナー	月2
副顧問	森 弘子	杉山 華可	部活動指導員	月8
副顧問	川口 智美			
副顧問	中山 光			
副顧問				

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会・東京都上位進出を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、高体連主催の大会や地域主催の大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質の工夫
練習は、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料(DVD)を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

※ 4(1)から(3)までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	関東予選
	6	関東大会(千葉県) インターハイ予選
	7	関東体育学科コース大会 夏季合宿(都立大島高校)
	8	全国体育学科コース大会(奈良県)
2 学期	9	全日本選手権一次予選
	10	
	11	新人選手権大会 専攻合宿(山梨県)
3 学期	1	新人選手権大会
	2	公立校大会 都外遠征
	3	

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

【記入例】

平成〇〇年度〇〇〇部の指導方針等について

平成〇〇年〇月〇日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	日本サッカー協会 公認C級	週4日
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	高校サッカー部 コーチ	月1回
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇		

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間3回、スポーツ大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料(DVD)を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

(4) 事故防止・安全配慮

生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選 関東大会〇〇県
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	8	夏季合宿（〇〇県〇〇市 体育館 3泊4日） 強化練習会参加 練習試合、〇〇県遠征
2 学期	9	地域スポーツ大会補助役員
	10	新人大会東京都予選 中学生部活動体験入部
	11	〇〇区民大会参加 〇〇大学合同練習
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	全国大会競技補助運営
	2	地区リーグ戦大会
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和8年度 男子バスケットボール部の指導方針等について

令和8年4月8日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	高松 直樹	根本 海渡	理学療法士	月2
副顧問	那須 晋			
副顧問	野島 潔貴			
副顧問	小野 翼			
副顧問	五十嵐 哲			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会・全国大会への出場を目指して日々の練習に取り組む。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は原則週に5日間とし、練習時間は、平日2.5時間、休日3時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に3～4回程度、競技力を高めるため都内・他県の強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、社会に通用する言動及び行動、自ら進んでリーダーシップが取れ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を高め、信頼関係を密にする。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料(DVD)を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。

(3) 外部指導員の活用

顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	関東大会東京都予選
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明） インターハイ東京都予選
	6	関東大会（栃木県） インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会 夏季合宿（長野県南佐久郡北相木村 体育館 4泊5日） 関東保健体育学科・コーススポーツ大会
	8	夏季休業中 練習試合等 中学生部活動体験入部 都内・関東近県への遠征
2 学期	9	練習試合等
	10	新人戦支部大会
	11	ウィンターカップ東京都予選
	12	冬季休業中 練習試合等
3 学期	1	新人戦本大会
	2	練習試合等 基礎体力強化練習
	3	春季休業中 練習試合等

(様式)

令和8年度女子バスケットボール部の指導方針等について

令和8年4月24日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	小野 翼	野田 拓司	鍼灸国家資格、AT	週1回
副顧問	長藤 敬	小川 ちひろ	部活動指導員	
副顧問	野島 潔貴			
副顧問	大津留 光			
副顧問				

2 年間目標

(1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像

「ハイレベルの文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。

(2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標

東京都ベスト8、関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。

(3) 地域貢献等の特色ある目標

東京都の大会や全国大会の補助役員として生徒が活動する。地域の人々に対するコミュニケーションを積極的に図る

3 指導方針

(1) 部活動の質の工夫

目標に対する課題達成のためのモチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。

(2) 練習や試合等の計画

月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。

(3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成

挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。

(4) 生徒相互の人間関係

チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。

(5) 学習と部活動

学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料などを参考に、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。

(2) 生徒間の暴力禁止

上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力や理不尽な力での問題解決を図ることがないように日頃からの指導を徹底する。

(3) 外部指導員の活用

顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

※ 4 (1) から (3) までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	関東大会予選、練習、遠征、練習試合
	5	関東大会予選、練習、遠征、練習試合
	6	総体予選（関東大会）、練習、遠征、練習試合
	7	練習、遠征、練習試合
	8	練習、遠征、練習試合
2 学期	9	練習、遠征、練習試合
	10	練習、遠征、練習試合
	11	新人大会、練習、遠征、練習試合
	12	練習、練習試合、全国選手権大会補助役員、冬季合宿
3 学期	1	新人大会
	2	練習、遠征、練習試合
	3	練習、遠征、練習試合、専攻合宿

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和8年度 硬式テニス部の指導方針等について

令和8年4月17日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	富田 康次郎	蚊口 昌也	上級指導員	週1回
主顧問	廣田 強		現 TTC テニスコーチ	
副顧問	石川 俊幸			
副顧問	加藤 圭介			
副顧問	木谷 隆太郎			
副顧問	鹿野 真由美			

2 年間目標

高体連インターハイ予選大会東京都ベスト8
同個人戦本戦出場
都立高大会 個人本戦・団体優勝

3 指導方針

- (1) 練習はモチベーションを高く保ち、集中して練習できる環境を作る。
- (2) 挨拶の励行など、基本的な生活習慣や規範意識を高めることにより、他の生徒の模範となるように心がける。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導

体罰関連行為のガイドラインや、体罰根絶映像資料（DVD）を活用し、顧問・生徒・保護者間で体罰、暴言などの行為のない指導について共通理解を図る。

- (2) 生徒間の暴力禁止

上級生から下級生へ、又は同級生同士の間で暴力による問題解決を図ることのないよう、日常からの指導を徹底する。

- (3) 外部指導員の活用

外部での講習会などで指導内容を顧問同士で連携を図りながら練習などに還元する機会を設けていく。

※ 4（１）から（３）までの３項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活紹介 東京都高等学校テニス選手権大会（個人）
	5	東京都高等学校テニス選手権大会（団体）
	6	夏季合宿健康診断
	7	都立高大会（団体） 夏季合宿（女子：山梨県南都留郡平野村 3泊4日）
	8	練習試合 目黒区大会
2 学期	9	東京都新人テニス大会（個人の部）
	10	練習試合
	11	東京都新人テニス大会（団体の部）
	12	城南大会（団体）

3 学期	1	都立高大会（個人）
	2	練習試合
	3	春季団体戦 目黒区大会

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

【記入例】

平成〇〇年度〇〇〇部の指導方針等について

平成〇〇年〇月〇日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	日本サッカー協会 公認C級	週4日
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	高校サッカー部 コーチ	月1回
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇		

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間3回、スポーツ大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者

と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。

(2) 生徒間の暴力禁止

運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。

(3) 外部指導員の活用

顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

(4) 事故防止・安全配慮

生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選 関東大会〇〇県
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	8	夏季合宿（〇〇県〇〇市 体育館 3泊4日） 強化練習会参加 練習試合、〇〇県遠征
2 学期	9	地域スポーツ大会補助役員
	10	新人大会東京都予選 中学生部活動体験入部
	11	〇〇区民大会参加 〇〇大学合同練習
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習

3 学期	1	全国大会競技補助運営
	2	地区リーグ戦大会
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和8年度 ソフトテニス部の指導方針等について

令和8年4月27日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	小林 真希	谷岡 優美	2025年 全日本レディース 大会 団体準優勝	4回／月
副顧問	網本 伊吹	高岡 良樹	関東高校選抜ソフトテニス大会出場、関東選手権大会出場、全日本社会人選手権大会出場	4回／月
副顧問	中村 広輝			
副顧問	松原 吉孝			

2 年間目標

【部目標】 他者から応援されるプレーヤー、チームになる。

【戦績目標】

- ・団体 男子都ベスト8、女子都ベスト4
- ・個人 (経験者) 都ベスト8 (初心者) 都ベスト64

3 指導方針

- ・脚力と循環器の強化を基礎とした体力の増進。
- ・一球への執着心、レスポンスの強化。
- ・試合展開を予測して有利な流れを生み出す頭脳の陶冶。
- ・チームの中でまたは試合進行の中での、自分の意味と役割の認知力と実践力の修得。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

常に客観的、理論的、合理的、科学的な技術指導に徹する。

指導方針について顧問、外部指導員、部員間相互のコミュニケーションを密にし、互いを尊重する人間関係の構築に鋭意努力する。

(2) 生徒間の暴力禁止

先輩の後輩に対する慈しみと、後輩の先輩に対する尊敬の健全な促進を図ることで、チーム全体の価値やありかたを追求し続ける姿勢を大切にする。

定例化した部会の活性化により、開かれた話し合いの場を通じての部員相互の理解を促進する。

(3) 外部指導員の活用

顧問は、生徒の安全管理について外部指導員の助言を常に仰ぐ。

全身を効率よく使ったスピードとバランスを重視のプレーができるよう、外部指導員と顧問で常に共通理解をもつ。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	関東大会個人戦 目黒区春季大会
	5	関東大会団体戦
	6	全国総体・国体予選個人戦 世田谷区春季大会個人戦
	7	世田谷区民ソフトテニス大会
	8	合宿(山中湖かっこう荘) 地区大会 新人大会個人戦
2 学期	9	普及研修大会個人戦 国公立大会団体戦 目黒区秋季大会 世田谷区民大会シングルス戦
	10	新進大会個人戦 世田谷区秋季団体戦
	11	インドア大会団体戦予選 世田谷選手権
	12	インドア大会団体戦決勝
3 学期	1	東京都後援、駒場高校・世田谷区ソフトテニス連盟共催高校生研修大会
	2	高体連シングルス大会
	3	国公立大会個人戦 世田谷区クラブ対抗団体戦 世田谷区高等学校女子団体戦

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

【記入例】

令和〇〇年度〇〇〇部の指導方針等について

令和〇〇年〇月〇日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	日本サッカー協会 公認C級	週4日
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	高校サッカー部 コーチ	月1回
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇		

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間3回、スポーツ大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。
- (4) 事故防止・安全配慮
生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選 関東大会〇〇県
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	8	夏季合宿（〇〇県〇〇市 体育館 3泊4日） 強化練習会参加 練習試合、〇〇県遠征
2 学期	9	地域スポーツ大会補助役員
	10	新人大会東京都予選 中学生部活動体験入部
	11	〇〇区民大会参加 〇〇大学合同練習
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	全国大会競技補助運営
	2	地区リーグ戦大会
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和 8 年度 卓球部の指導方針等について

令和 8 年 4 月 22 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	牛山 良太			
副顧問	竹田 彩子			
副顧問	嶋村 安紘			
副顧問	日高 順			
副顧問				

2 年間目標

- ・部活動を通じて心身を磨く。
- ・初心者も含め、各大会で1勝でも上を目指して努力する。

3 指導方針

- ・顧問の指導のもと、部員との話し合いを重視した指導を行う
- ・部員の健康・安全に配慮した指導を行う。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

- ・ミーティング等での生徒との話し合いを重視し、問題等を解決するようにする。

(2) 生徒間の暴力禁止

- ・生徒間のトラブルなどは、ミーティングなどの話し合いで解決することを常に部員に徹底させる。
- ・部員間のトラブルには顧問が早期の段階で指導を開始する。

(3) 外部指導員の活用

- ・本学年度は活用しない

※ 合宿は実施予定なし。保護者会については部費を徴収していないので、実施予定なし。

※ 4 (1) から (3) までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	関東大会予選参加
	5	インターハイ予選参加
	6	
	7	夏合宿は現在実施しない方向。
	8	国公立大会参加（予定）
2 学期	9	
	10	新人戦参加（予定）
	11	新人戦参加（予定）
	12	
3 学期	1	基礎体力強化
	2	地区別大会参加（女子、予定）
	3	基礎練習強化

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

【記入例】

令和〇〇年度〇〇〇部の指導方針等について

令和〇〇年〇月〇日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	日本サッカー協会 公認C級	週4日
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	高校サッカー部 コーチ	月1回
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇		

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間3回、スポーツ大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。
- (4) 事故防止・安全配慮
生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選 関東大会〇〇県
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	8	夏季合宿（〇〇県〇〇市 体育館 3泊4日） 強化練習会参加 練習試合、〇〇県遠征
2 学期	9	地域スポーツ大会補助役員
	10	新人大会東京都予選 中学生部活動体験入部
	11	〇〇区民大会参加 〇〇大学合同練習
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	全国大会競技補助運営
	2	地区リーグ戦大会
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和 8 年度 KMC の指導方針等について

令和 8 年 4 月 13 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	網本 伊吹	菊地 渉		週 2 回
副顧問	秋山 樹里	田村 篤信		週 2 回
副顧問	牛山 良太	内藤 まりん		月 2 回
副顧問	岡本 竜一	大楠 幸二		月 2 回
副顧問	手嶋 憲彦			

2 年間目標

夏と秋の東京都高等学校軽音楽連盟主催大会決勝進出 入賞
演奏技術の向上と部員間の親睦。
発表会（文化祭、学期ごとの発表会、文化部発表会）での成功。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、
集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる
とともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

3 指導方針

バンド演奏活動を通し、演奏技術の向上、大会入賞レベルへの底上げを目指す
とともに、部員同士の親睦を深め、自主的、実践的な態度を育む。
連盟大会規則に従って、高校生としての自覚ある行動が出来るよう指導する。
駒場高校を代表する部活を目指す。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

顧問間で連携して情報を共有し合い、生徒の声をよく聴き、未然に防ぐ体制とする。
生徒間の過度の上下関係が生じないように目を配り、適宜話し合う機会を設ける。

(2) 生徒間の暴力禁止

バンド活動の中でおこりうる対立は一人一人の意見を尊重し、
話し合いで解決するように指導する。

(3) 外部指導員の活用

部活動指導員や OBOG など技術指導の出来る方にレッスンを行ってもらう機会を設け、各パートの演奏技術向上や、大会に向けたオリジナル楽曲の制作レッスンを行っている。

※ 4 (1) から (3) までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介・新入生楽器体験 入部・担当パート決め (1 年生)
	5	新入部員に対する楽器指導。バンド決め 部活動保護者会
	6	引退ライブ (3 年生) 東京都高等学校軽音楽コンテストに向けたレコーディング (出場バンド)
	7	東京都高等学校軽音楽コンテスト (～8 月) 夏季合宿 7/24～7/27 (新潟県 ホテルシェラリゾート湯沢 3 泊 4 日)
	8	学校見学会にてお披露目ミニライブ 夏季ライブハウスお披露目 都駒祭に向けて練習。
2 学期	9	都駒祭
	10	学校説明会にてお披露目ミニライブ。 東京都高等学校文化祭 軽音楽部門大会 東京都高等学校対抗バンド フェスティバル (～11 月)
	11	学校説明会にてお披露目ミニライブ。
	12	冬季ライブハウスお披露目 (年忘れライブ) 冬季休業期間中 他校との合同ライブ

3 学期	1	文化部発表会で演奏する曲目の決定。練習。
	2	文化部発表会
	3	春季休業期間中 他校との合同ライブ

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

【記入例】

令和〇〇年度〇〇〇部の指導方針等について

令和〇〇年〇月〇日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	日本サッカー協会 公認C級	週4日
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	高校サッカー部 コーチ	月1回
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇		

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間3回、スポーツ大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し

合った上で共通理解を図り指導を行う。

(4) 事故防止・安全配慮

生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選 関東大会〇〇県
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	8	夏季合宿（〇〇県〇〇市 体育館 3泊4日） 強化練習会参加 練習試合、〇〇県遠征
2 学期	9	地域スポーツ大会補助役員
	10	新人大会東京都予選 中学生部活動体験入部
	11	〇〇区民大会参加 〇〇大学合同練習
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	全国大会競技補助運営
	2	地区リーグ戦大会
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和 8 年度 美術部の指導方針等について

令和 8 (2026) 年 4 月 15 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	河野 真由子 (英語)	小松 稔 (美術)	本校美術科講師 (教諭)	週 1
副顧問	加瀬 宏行 (数学)			
副顧問				
副顧問				
副顧問				

2 年間目標

- ・ 年間を通じて美術作品を制作させる。
- ・ 作品制作を通じて豊かな創造性を養う。
- ・ 共同作品の制作を通じて協同の精神を養う。
- ・ 作品発表を通じて主体性を養う。
- ・ 他人の美術作品を鑑賞させることで豊かな感受性を養う。
- ・ ハイレベルの文武両道の達成を目指す。

3 指導方針

- ・ 通常の時期は、水曜日・金曜日（・授業のある土曜日）放課後に活動を行う。
- ・ 文化祭・中央展・文化部発表会等の前には、これ以外の曜日にも活動を行う。
- ・ 生徒の主体的創造性を最大限引き出す。
- ・ 技術の向上を目指すとともに、豊かな心の涵養を目指す。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

- ・ 体罰・暴言等の一切ありえない指導を貫徹する。

(2) 生徒間の暴力禁止

- ・ 生徒間の暴力が一切ありえない雰囲気を貫徹する。

(3) 外部指導員の活用

- ・ 本校美術科講師に外部指導員として週一回来てもらい、技術的指導をしてもらう。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 作品制作
	5	作品制作
	6	作品制作
	7	作品制作
	8	作品制作 スケッチ行
2 学期	9	作品制作 文化祭準備 文化祭作品発表
	10	作品制作
	11	作品制作
	12	作品制作 東京都高等学校文化祭美術・工芸部門中央展作品発表
3 学期	1	作品制作
	2	作品制作 文化部発表会作品発表
	3	作品制作

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和 8 年度 写真部の指導方針等について

令和 8 年 4 月 1 0 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	北洞 拓郎			
副顧問	嶋村 安紘			
副顧問				
副顧問				
副顧問				

2 年間目標

- ・文化祭・文化部発表会での展示に向けて撮影等の活動を行う。
- ・外部のコンクールでの入賞を目指して日々の活動に取り組む。
- ・年間を通してカレンダー作成を行う。

3 指導方針

- ・活動は体育祭・文化祭・文化部発表会・球技大会の撮影を中心に、日々の活動もしっかり行い、技術向上に努める。
- ・定期掲示を行い、写真部の存在を知ってもらえるように活動する。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

体罰関連行為のガイドラインを活用する。

(2) 生徒間の暴力禁止

上級生から下級生、同級生同士の間で暴力による問題解決を図ることのないよう指導をする。

(3) 外部指導員の活用

外部指導員は活用しない。

※ 4 (1) から (3) までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	・ 1 年間の活動を通じて、来年度の年間カレンダー作り ・ 体育祭（撮影） ・ 写真甲子園
	5	
	6	
	7	
	8	
2 学期	9	・ 都駒祭（撮影）・展示
	10	
	11	
	12	
3 学期	1	・ 文化部発表会準備（撮影） ・ 文化部発表会（撮影）・展示 ・ 球技大会（撮影）
	2	
	3	

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

【記入例】

令和〇〇年度〇〇〇部の指導方針等について

令和〇〇年〇月〇日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	日本サッカー協会 公認C級	週4日
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	高校サッカー部 コーチ	月1回
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇		

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間3回、スポーツ大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

(4) 事故防止・安全配慮

生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選 関東大会〇〇県
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	8	夏季合宿（〇〇県〇〇市 体育館 3泊4日） 強化練習会参加 練習試合、〇〇県遠征
2 学期	9	地域スポーツ大会補助役員
	10	新人大会東京都予選 中学生部活動体験入部
	11	〇〇区民大会参加 〇〇大学合同練習
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	全国大会競技補助運営
	2	地区リーグ戦大会
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和8年度 ESS 部の指導方針等について

令和8年4月1日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	森 弘子			
副顧問	五十嵐 哲			
副顧問	最上谷 明信			
副顧問				

2 年間目標

- ・ 英検の取得やスピーチコンテスト参加を目標に英語の運用能力を高める。
- ・ Native teacher との交流により、外国の言語や文化に対する理解を深める。
- ・ Online で海外の生徒との交流を深める。

3 指導方針

- ・ 毎週火木曜日放課後に行うが、文化祭の準備や発表の前にはこれ以外にも活動を行う。
- ・ 生徒の創造的主体性を最大限に引き出す。
- ・ 生徒間の協調性や責任感を育てる。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

- ・ 体罰、暴言の一切ありえない指導を徹底する。

(2) 生徒間の暴力禁止

- ・ 上級生から下級生、同級生同士の間で暴力により問題解決をはかるような雰囲気にならないよう、日ごろから指導を徹底する。

(3) 外部指導員の活用

顧問と外部指導員両者が話し合った上で、共通理解を図った上で指導行う。

※ 4 (1) から (3) までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	自己紹介 年間計画
	5	ゲーム
	6	英検対策
	7	文化祭準備
	8	
2 学期	9	文化祭準備
	10	ビデオ鑑賞
	11	ハロウィーン ディスカッション
	12	ボードゲーム 英検対策 クリスマス ディスカッション・ゲーム
3 学期	1	ビデオ鑑賞 英検対策
	2	バレンタイン ゲーム
	3	1年間の振り返り 来年度の目標決め

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和8年度 演劇部の指導方針等について

令和8年4月27日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	松原千尋	富沢多佳子	部活動指導員 駒44 全国大会演出	154h/年
副顧問	新村敦	北川莉那	部活動指導員	223h/年
副顧問	芳賀紀久美	後飯塚由香里	部活動外部指導員	60h/年
副顧問	日高順			

2 年間目標

- (1) 集団による演劇制作の過程で、個々の生徒が自己を表現し、演劇についての様々な技術を向上させ、部員一丸となって総合芸術を作る楽しさを知る。
- (2) 東京都高等学校文化祭・演劇部門地区発表会（地区大会）に参加し、さらに都中央発表会（都大会）等の上位大会に推薦される上演をめざす。
- (3) 対外的な交渉や他校の演劇部の生徒との交流によって、人間関係を構築し、他者を受容する態度を養う。

3 指導方針

- (1) 練習の質の工夫
練習は、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や公演等の計画
他校との交流も図りながら、校内公演・地区大会・地区行事に参加してゆく。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶を励行し、正しい言葉遣いを心がけ、自ら進んでリーダーシップがとれるような模範的な生徒となるよう促す。劇場スタッフの方や大会運営を担う方々に敬意を持って接し、生徒自らも運営スタッフとして積極的に活動するように指導する。
- (4) 生徒相互の人間関係
演劇部として共に作品を作る中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習活動と部活動を両立させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとる。
- (6) 安全性の確保
稽古・上演とも十分に安全性に配慮し、事故が起これぬように事前の準備を促す。身体と精神の両面について指導者が常に配慮し、また生徒自身の自己管理も促す。
- (7) 既成戯曲や実際の上演に触れる機会を紹介し、台詞や演出への興味関心を高める。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

高いレベルの演劇表現を求めることと、威圧的に生徒の精神を追いつめることとの違いを認識し、生徒に対して暴言を与えない。

(2) 生徒間の暴力禁止

生徒同士の人間関係を把握し、また、生徒が穏やかな気持ちで部活動に参加できるようにさまざまに配慮する。

(3) 部活動指導員の活用

顧問と部活動指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が会合・協議を重ねて生徒についての共通理解を図り、連携して指導に当たる。

※ 4 (1) から (3) までの3項目は、必ず記載する。

(主な年間計画は次のページに記載する。)

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	○新入生歓迎公演 ○照明・音響体験会 ○基礎練習 ○山手城南地区総会 ○自己紹介日（3年～1年）
	5	○1年生校内演劇の準備 ○都高等学校演劇連盟総会 ○基礎練習
	6	○文化祭・地区大会向け台本準備 ○保護者会・1年生演劇校内発表 ○地区行事（Fステージ）参加 ○基礎練習 ○演劇会場の照明設置・ステージ準備
	7	○山城祭（地区行事） ○地区大会公演プログラム抽選会 ○合宿（渋谷・オリンピックセンター）
	8	○文化祭に向けての稽古
2 学期	9	○文化祭準備 ○文化祭公演 ○舞台バラシ
	10	○地区大会参加のための、作品のブラッシュアップ ○地区大会（中目黒キンケロシアター）
	11	○都大会（地区大会で認められた場合） ○文化部発表会準備
	12	○山手城南地区クリスマス公演 ○文化部発表会準備
3 学期	1	○文化部発表会準備 ○照明設置・舞台設置 ○（文化部発表会準備と同時並行で）新入生歓迎公演の準備
	2	○文化部発表会公演 ○三送会（三年生を送る会）準備 ○地区合同公演準備
	3	○新入生歓迎会準備 ○三送会 ○地区合同学年末公演・三年生卒業公演

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和 8 年度 茶道 部の指導方針等について

令和 8 年 4 月 8 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	十亀 有紀	濱本祐子		
副顧問	森 暁子			
副顧問	鹿野 真由美			
副顧問				
副顧問				

2 年間目標

- ・表千家茶道の基本的所作の習得
- ・茶道文化の理解

3 指導方針

- ・少人数の活動により、部員相互の協力関係・親睦を深める。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
 - ・顧問・指導員ともに、人権・教育的活動の意識の徹底
- (2) 生徒間の暴力禁止
 - ・生徒相互の尊重する意識の向上を図る
- (3) 外部指導員の活用
 - ・基本技能の伝授

※ 4 (1) から (3) までの 3 項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	・ 基本技能の習得
	5	
	6	
	7	
	8	
2 学期	9	・ 文化祭でのお点前披露
	10	
	11	
	12	
3 学期	1	・ 冬の茶会（上野公園）参加 ・ 文化部発表会参加
	2	
	3	

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

【記入例】

令和〇〇年度〇〇〇部の指導方針等について

令和〇〇年〇月〇日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	日本サッカー協会 公認C級	週4日
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	高校サッカー部 コーチ	月1回
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇		

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間3回、スポーツ大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。
- (4) 事故防止・安全配慮
生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選 関東大会〇〇県
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	8	夏季合宿（〇〇県〇〇市 体育館 3泊4日） 強化練習会参加 練習試合、〇〇県遠征
2 学期	9	地域スポーツ大会補助役員
	10	新人大会東京都予選 中学生部活動体験入部
	11	〇〇区民大会参加 〇〇大学合同練習
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	全国大会競技補助運営
	2	地区リーグ戦大会
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和8年度 箏曲部の指導方針等について

令和8年 4月 8日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	柴田 晶子	美蔦 洋子	裏免状 奥免状	月1回
副顧問	西川 かおり			
副顧問				
副顧問				
副顧問				

2 年間目標

- (1) 琴に親しみ、楽しく演奏する。
- (2) 伝統芸能である琴の演奏方法や、作法などを学ぶ。
- (3) 部員同士教えあい、練習し合うことで、学年を超えた交流をはかる。

3 指導方針

- (1) 週一回の先生のご指導を基本にしつつ、他の2回の活動日に真面目に練習して演奏する力を高めるよう指導する。
- (2) 生徒の自主的な部活動運営を促す。
- (3) 入学式のホールでの演奏など、発表の機会を大切にし、それに向けて皆で努力して上達するという雰囲気を大切にする。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

伝統文化である琴の指導者の先生の丁寧な言動をお手本に、礼儀正しく和やかな活動を維持する。

(2) 生徒間の暴力禁止

協調性を必要とする琴の演奏を通して、皆を尊重する態度を養う。

(3) 外部指導員の活用

これまで本校の卒業生で、琴の教授の資格を持つ指導員の先生に30年以上にわたってご指導いただいていたが、今年度より新たに美蔦洋子先生にご指導いただくこととなった。

※ 4(1)から(3)までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期		入学式での演奏に向けての練習
	4	入学式に玄関ホールで新入生歓迎の演奏を行う。 対面式にて部活動紹介（一曲演奏）
	5	一年生の指導及び各学年ごとの課題曲の練習
	6	各学年ごとの課題曲の練習
	7	文化祭で弾く演目の決定及び練習
	8	学校見学者向けお琴教室の開催 文化祭での演奏曲の練習
2 学期	9	文化祭へ向けてポスターなどの準備 練習及び演奏会の準備、予行演習など 文化祭での発表
	10	各学年ごとの課題曲の練習
	11	各学年ごとの課題曲の練習 及び学校説明会での演奏
	12	文化部発表会で弾く演目の決定及び練習
3 学期	1	文化部発表会に向けた練習
	2	文化部発表会の準備及び練習 文化部発表会
	3	入学式での演奏曲目の決定及び練習

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和 8 年度駒場フィルハーモニーオーケストラ部の指導方針等について

令和 8 年 4 月 2 5 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		部活動指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	北神 純一	小村 文乃	再度任用回数 1	年 140 時間
副顧問	赤堀 太郎	平山 卓真	再度任用回数 1	年 110 時間
副顧問	恒藤 碧	飯島 茜	再度任用回数 0	年 110 時間
副顧問	竹田 彩子			
副顧問	大津留 光			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
日本学校合奏コンクール録音審査通過、合奏コンクール本選出場を果たすし、受賞を目指す。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間 1 回は外部の教育施設に赴き出張演奏を行う。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に 5 日間とし、練習時間は平日 2 時間、休日 3 時間を基本とする。
- (2) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
オーケストラの活動を通して、協調性や責任感を育成する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間確保のため部活動の時間が過多にならないよう配慮する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していくために、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

(4) 事故防止・安全配慮

生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	入部式
	6	室内楽コンサート
	7	サマーコンサート
	8	合宿（山梨県河口湖町：ほりのや）
2 学期	9	都駒祭にて演奏 日本学校合奏コンクールに録音審査音源提出
	11	高文連音楽部門 地区大会 日本学校コンクールグランドコンテスト（録音審査通過した場合のみ）
	12	のぞみ保育園にて演奏 クリスマスコンサート（部内行事） 全国高等学校選抜オーケストラフェスタ（日本青年会館）
3 学期	1	高文連音楽部門 中央大会
	2	文化部発表会
	3	ふれあいコンサート（目黒区第一中学校にて） 卒業コンサート

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

【記入例】

令和〇〇年度〇〇〇部の指導方針等について

令和〇〇年〇月〇日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	日本サッカー協会 公認C級	週4日
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	高校サッカー部 コーチ	月1回
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇		

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間3回、スポーツ大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (3) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (4) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し

合った上で共通理解を図り指導を行う。

(5) 事故防止・安全配慮

生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選 関東大会〇〇県
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	8	夏季合宿（〇〇県〇〇市 体育館 3泊4日） 強化練習会参加 練習試合、〇〇県遠征
2 学期	9	地域スポーツ大会補助役員
	10	新人大会東京都予選 中学生部活動体験入部
	11	〇〇区民大会参加 〇〇大学合同練習
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	全国大会競技補助運営
	2	地区リーグ戦大会
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和8年度 科学部の指導方針等について

令和8年4月23日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	松原 吉孝			
副顧問	野島 潔貴			
副顧問	都所 恒太			
副顧問				
副顧問				

2 年間目標

- (1) 科学的な探求心・興味・関心を養う。
- (2) 部員各人が研究テーマを追求する。
- (3) 部員相互の交流を図り、テーマに関する意見交換等を行い、見識を高める。

3 指導方針

- (1) 自主的・自発的な発想を尊重する。
- (2) 文化的な発表の場で、活動の成果を表現する。
- (3) 実験等に際しては、安全に配慮する。
- (4) 計画性を持って、時間を有効に使う。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

体罰・暴言等は許されないという意識を強く持ち、体罰・暴言等のない指導を行う。

(2) 生徒間の暴力禁止

協調性を大切にし、安全で落ち着いた中で活動が行える態度を養う。

(3) 外部指導員の活用

必要があれば活用を図る。

※ 4 (1) から (3) までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	6	生徒会部活動紹介
	7	研究活動
	8	研究活動
2 学期	9	都駒祭参加
	10	研究活動
	11	研究活動
	12	研究活動
3 学期	1	研究活動
	2	文化部発表会
	3	研究活動

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和 8 年度 放送局の指導方針等について

令和 8 年 4 月 8 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	加藤 圭介			
副顧問	長藤 敬			
副顧問				
副顧問				
副顧問				

2 年間目標

体育祭・文化祭等の学校行事の運営に貢献する。また、週に 2 回程度、昼休みに校内放送を行う。また、東京都高等学校文化連盟放送部会主催の放送コンテストや NHK 杯全国高校放送コンテストのような大会において、上位成績・全国大会を目指す。

3 指導方針

「2 年間目標」が達成できるように、必要な支援を行うとともに、技術指導等についても可能な範囲で行う。放送活動を単に自己表現の場としてとらえるのではなく、公益性や公共性を考えてできるような、思考力・表現力・判断力を育成する。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

体罰や暴言があってはならないことを当然のこととし、生徒への言動の一つ一つが彼らの人格形成に資することを自覚し、丁寧かつ社会人としてふさわしい言葉を使った指導を行う。

(2) 生徒間の暴力禁止

暴力があってはならないことを前提とし、SNS 等の場においても人を傷つけることがないように、人間関係のトラブル等の平和的解決を図ることができる力を育む。

(3) 外部指導員の活用

放送またはアナウンスの技術向上のために、必要に応じて外部指導員を活用する。

※ 4（1）から（3）までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	入学式 設営・運営補助
	5	体育祭 運営・アナウンス
	6	NHK 杯全国高校放送コンテスト東京大会（予選） NHK 杯全国高校放送コンテスト東京大会（決勝）
	7	終業式 設営・運営補助
	8	始業式 設営・運営補助
2 学期	9	文化祭 企画参加（校内アナウンス）
	10	学校説明会①
	11	学校説明会② 東京都高等学校文化祭放送部門（予選） 東京都高等学校文化祭放送部門（決勝）
	12	学校説明会③ 終業式 設営・運営補助
3 学期	1	始業式 設営・運営補助
	2	文化部発表会 企画参加（校内アナウンス）
	3	修了式 設営・運営補助

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

【記入例】

令和〇〇年度〇〇〇部の指導方針等について

令和〇〇年〇月〇日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	日本サッカー協会 公認C級	週4日
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	高校サッカー部 コーチ	月1回
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇		

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間3回、スポーツ大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し

合った上で共通理解を図り指導を行う。

(4) 事故防止・安全配慮

生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選 関東大会〇〇県
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	8	夏季合宿（〇〇県〇〇市 体育館 3泊4日） 強化練習会参加 練習試合、〇〇県遠征
2 学期	9	地域スポーツ大会補助役員
	10	新人大会東京都予選 中学生部活動体験入部
	11	〇〇区民大会参加 〇〇大学合同練習
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	全国大会競技補助運営
	2	地区リーグ戦大会
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和8年度 新聞局の指導方針等について

令和6年4月23日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	赤堀 太郎			
副顧問	中村 広輝			
副顧問				
副顧問				
副顧問				

2 年間目標

- (1) 「ハイレベルの文武両道」を目指す本校において、広く社会に目を向け、批判的精神を持って報道活動を展開する。
- (2) 70年以上の歴史を持つ「駒場高校新聞」の伝統を受け継ぎ、それをさらに発展させる。
- (3) 新聞局の理念および編集方針として次の3点を掲げている。
 - ①記録を残す（伝統を引き継ぐ&伝統をつくる）
 - ②社会問題に目を向ける（批判精神を持つ）
 - ③駒場高校の情報を共有する（日常に根ざす）

3 指導方針

- (1) 毎週1回編集会議を開いて編集方針を確認し、タイムリーなテーマを取り上げるよう指導する。
- (2) 単なる興味本位の記事にならないよう、取材対象や出来事の背景を考えさせるよう指導する。
- (3) 局員個別の作業とならないよう、取材活動や入力作業、校正作業などの際に、協力して活動するよう指導する。
- (4) 常に問題意識を持つよう、学校だけでなく社会全体に目を向けるよう指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 局員の自主性と自発性を重視し、顧問の思想や考えを押しつけることのないよう、体罰・暴言等のない指導をおこなう。
- (2) 上級生と下級生との垣根をなくし、生徒間の暴力を禁止する。
- (3) 文化部推進校予算を活用し、新聞作成用資材の充実を図る。

※ 4(1)から(3)までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	駒場高校新聞 299 号発行 毎週最低一回の編集会議を開催して、次号と次々号の内容について検討を重ねる。新聞一号を発行するまでに、最低3ヶ月程度の準備期間を設けている。なお、発行直前の2週間ほどは、ほぼ毎日昼休みと放課後に活動する。
	5	
	6	駒場高校新聞発行
	7	全国高校総合文化祭（鹿児島）参加
2 学期	9	駒場高校新聞発行
	10	
	11	新聞交流会参加
	12	駒場高校新聞発行
3 学期	1	
	2	駒場高校新聞発行
	3	駒場高校新聞卒業式特別号発行

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和 8 年度 文芸 部の指導方針等について

令和 8 年 4 月 27 日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	木本 真衣			
副顧問	手束 貴則			
副顧問				
副顧問				
副顧問				

2 年間目標

- ・ 自己の内面を多様な語彙を用いて豊かに表現できること。
- ・ 文芸誌を主に都駒祭と文化部発表会の年二回に分けて出展する。

3 指導方針

- ・ 生徒の文章力がより向上するよう、添削を通して指導する。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

- ・ 常に生徒の気持ちを慮り、思いやりのある指導を行う。

(2) 生徒間の暴力禁止

- ・ 検討事項がある場合は協議をし、何事も話し合いでの解決を目指させる。

(3) 外部指導員の活用

- ・ 特になし。

※ 4 (1) から (3) までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	・ 執筆
	5	
	6	
	7	
	8	
2 学期	9	・ 都駒祭文芸誌の執筆と印刷
	10	
	11	
	12	
3 学期	1	・ 文化部発表会文芸誌の執筆と印刷
	2	
	3	

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

【記入例】

令和〇〇年度〇〇〇部の指導方針等について

令和〇〇年〇月〇日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	日本サッカー協会 公認C級	週4日
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	高校サッカー部 コーチ	月1回
副顧問	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇		

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
「文武両道」を方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
関東大会出場を目指して日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域交流を積極的に図るため、年間3回、スポーツ大会の補助役員として生徒が活動する。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、原則週に5日間とし、練習時間は、平日2時間、休日4時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 練習や試合等の計画
月に1～2回程度、競技力を高めるため強豪チームと練習試合を行う。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を定着させるため、家庭での学習時間を確保するよう保護者と連携をとって指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問、外部指導員、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。
- (2) 生徒間の暴力禁止
運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。
- (4) 事故防止・安全配慮
生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介 関東大会東京都予選 関東大会〇〇県
	5	部活動保護者会（指導方針等を説明）
	6	インターハイ東京都予選
	7	夏季合宿健康診断・保護者説明会
	8	夏季合宿（〇〇県〇〇市 体育館 3泊4日） 強化練習会参加 練習試合、〇〇県遠征
2 学期	9	地域スポーツ大会補助役員
	10	新人大会東京都予選 中学生部活動体験入部
	11	〇〇区民大会参加 〇〇大学合同練習
	12	冬季休業中 練習及び練習試合 基礎体力強化練習
3 学期	1	全国大会競技補助運営
	2	地区リーグ戦大会
	3	部活動保護者会（年間の活動の振り返りと次年度への反映） 春季休業中 練習及び練習試合

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。

(様式)

令和8年度 百人一首部の指導方針等について

令和8年 4月 25日

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	石川 俊幸	小林 亮介	A級4段	月1回
副顧問	小澤 千里	清 拓郎	A級4段	月4回
副顧問	田中 啓之	沖山 槇之介	A級4段	月1回
副顧問	木谷 隆太郎	塩 治 円	A級5段	月4回
副顧問	日景 和人			

2 年間目標

- (1) 高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。
- (2) 全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会（近江大会）への出場および上位入賞を目指し、日々の練習に取り組む。

3 指導方針

- (1) 練習は、原則週に五日間とし、練習時間は、平日二時間、休日四時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。
- (2) 高等学校文化連盟主催の大会の他、各種かるた会主催の大会に参加し、技術の向上を図る。
- (3) 挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) チームとして行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。
- (5) 学習と部活動の両立を定着させるよう、保護者と連携をとりながら指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
顧問と外部指導員、保護者で連絡を密に取りながら体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。
- (2) 生徒間の暴力禁止
上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
- (3) 外部指導員の活用
顧問と外部指導員のそれぞれの役割について基本的な考え方を示し、両者が話し合った上で共通理解を図り指導を行う。

※ 4 (1) から (3) までの3項目は、必ず記載する。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
1 学期	4	生徒会部活動紹介
	5	高等学校総合文化祭代表選考会 さがみ野大会 東京吉野大会 保護者会
	6	全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会東京予選 東京都かるた大会
	7	多摩大会 全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会
	8	高等学校総合文化祭 合宿 全国学生選手権
2 学期	9	都駒祭 関東大会東京予選
	10	府中白妙大会 東京吉野大会
	11	関東大会
	12	都立高校大会 育成職域大会
3 学期	1	新春大会 東京東大会 横浜大会
	2	文化部発表会 東京白妙大会 静岡大会
	3	全国学生選手権 全国職域かるた大会

※ 合宿や県外遠征などの宿泊を伴う活動については、必ず記載する。